

令和8年6月 定例教育委員会

日 時 令和8年6月29日(月)15時00分～

場 所 市役所11階 会議室1

出席者

(教育委員)

陣内教育長 松野教育長職務代理者 古賀委員 中村委員 西沢委員

(事務局)

井上教育総務部長 鳩山学校教育部長 木下学校教育部次長兼学校教育課長

黒田学校教育部次長 藤川学校教育部次長兼学校保健課長

塚田教育総務部次長兼総務課長 田村社会教育課長 大石教育センター所長

大田学校保健課主幹 黒木総務課係長 小瀬良総務課主事

欠席者 なし

傍聴者 なし

内 容

(1) 教育長報告

(2) 令和8年4月分 議事録確認

(3) 議 題

- ① 令和8年度(令和7年度活動)自己点検及び評価(内部評価)の件 (総務課)
- ② 令和8年度(令和7年度活動)自己点検及び評価(内部評価)における外部委託の件 (総務課)
- ③ 佐世保市学力向上プランについて (学校教育課、教育センター、スマート・スクール・SASEB O推進室)

(4) 協議事項

案件なし

(5) 報告事項

- ① 7月の社会教育事業について (社会教育課)
- ② 令和8年度佐世保市中学校体育大会の結果について (学校保健課)
- ③ 報告④、⑤を秘密会にする件
- ④ 令和8年度「長崎県学力調査」の結果について(学校教育課)
- ⑤ 学校運営状況報告について(学校教育課)

(6) その他

- ① 次回開催予定について

◆教育長報告

○6月1日 市内全小中学校等で「命を見つめる日」として、校長先生方からの温かいメッセージを子供たちにいただきました。

○6月2日 今年度初の社会教育委員会を開催しました。

○6月5日 赤崎小学校の学校訪問を実施しました。

○6月6日 教育会の総会がさせぼホールで開催されました。今回は曾和会長のお話を拝聴する機会があり、カンボジアの学校の状況等について伺い、大変驚いた点もあり、勉強にもなりました。

○6月8日 教育委員会協議会を開催しました。

○6月11日から佐世保市議会の6月定例会が開催されており、以前ご報告したとおり、条例改正案件が2件（佐世保市立小学校、中学校及び義務教育学校条例の一部改正とさせぼ立神近代化歴史公園の管理に関する条例の一部改正）、それから補正予算関係について審議をいただいております。明後日の本会議で最終議決の予定です。

○6月13日 熊丸光子先生の「いのち輝く」講演会を開催しました。

○6月29日 佐世保空襲の死没者献花式が開催されました。

◆教育長報告・議事録確認

【陣内教育長】

皆さん、おはようございます。

6月の定例教育委員会を開催したいと思います。

4月の議事録の確認ですが、お目通しをいただきましたでしょうか。

【教育委員一同】

はい。

【陣内教育長】

それでは、早速今日の議題が3件、報告事項が5件と、たくさんありますので、1つ1つ進めていきたいと思います。

1つ目から行きましょう。

令和8年度（令和7年度活動）の自己点検及び内部評価の件について、総務課からお願いします。

（1）令和8年度（令和7年度活動）自己点検及び評価（内部評価）の件

【塚田総務課長】

議題資料P1及び別添資料①により説明

【陣内教育長】

ありがとうございます。

今、事務局から今回の内容と今後の流れ等も含めて説明がありましたが、皆様の方からご意

見、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。

【古賀委員】

今のこのKPIの説明について確認です。

良くなった部分を最後に3か所お話しいただいたと思いますが、生涯学習事業の参加者数は減っているのに、その下の拠点施設の利用者は増えている。

自己肯定感が上がる。健全育成も上がる。生涯学習事業の参加数はどのようになっていますか。

【陣内教育長】

今、総務課長が言われたのは「経年変化で上がった分」ではなくて、「目標値を超えたもの」を挙げた、という理解でよろしいですか。

【塚田総務課長】

はい。

先ほど3つについて説明しましたが、資料をご覧くださいれば、上から3番目の全国学力・学習状況調査の児童生徒の自己肯定感は、目標値が86%に対し、実績が88.8%で、目標を上回りました。

健全育成事業の参加者数についても、目標は1万7千人でしたが、実績は2万1518人でした。生涯学習事業への参加者数は、目標が14万8000人、実績が20万117人で、いずれも目標値を上回ったものとして説明しました。

【陣内教育長】

今の視点は重要ですね。

特に下から2番目の生涯学習事業の参加者数は14万8000人という目標値は達成できたけれども、経年変化で見ると昨年度よりは落ちている。

ここは主管課でしっかり分析し、なぜ落ちているのかを見ていただきたい。安心はできないということですね。

逆に最後の項目は126万7000人で、目標に2000人ほど届かなかったけれども、昨年度と比べると随分上がってきている。

この傾向が続けば来年度は良い方向になるかもしれないので、この伸びた理由を把握し、それを継続していくことが大事です。そこはぜひフィードバックしておいてください。ありがとうございます。

【中村委員】

上から2つ目の「体力・運動好き」というところですが、実績がずっと同じ86.8%で、少し違和感があります。何か原因がありますか。

【藤川学校保健課長】

この86.8%については、子供たちのアンケートの回答結果が同じ割合だったということで、その集計結果をそのまま記載しております。

【陣内教育長】

これは何年生のデータですか？

【藤川学校保健課長】

小学校の5年生、中学校の2年生です。

【陣内教育長】

毎年違うメンバーになるのに、数字が同じというのは不思議ですね。

でも、今の話からすると「たまたま」ということですね。不思議ではありますが。

【西沢委員】

1つ質問よろしいでしょうか。

社会指標とKPIの達成状況のところ、社会指標の「市民1人当たりの生涯学習に関わった回数」の目標が「向上」となっていますが、具体的な数値を決めない理由、あるいは最低限ここまでという基準のようなものはありますか。

前回お伺いできなかったもので、すでに説明があったのかもしれませんが、教えていただけますか。

【陣内教育長】

他の項目には、総計の最終年度にどこまで上げるのかの目標値があり、それに基づいて年度ごとの目標を設定しています。

ところが、この一番上だけは「向上」という、非常に漠然とした方向性になっている。ここはどういう根拠になっていますか。

【塚田総務課長】

別添資料①の自己点検11ページをご覧ください。

「目指す方向」の欄では、1人当たり実績値は6.5回、参考値として令和4年度が5.0回となっています。現時点では「向上」という表現で方向性を示しています。

【陣内教育長】

黒木係長、総合計画の立て付けがこのようになっているという理解でよろしいですか。

【黒木総務課係長】

はい、そのようになっています。

社会指標とKPIの達成状況の欄の社会指標については、市全体で方向性を定めると第7次総合計画で定めています。

表現として「目標」と記載していますが、本来は「方向性」と記載した方が適切だったと反省しているところです。

【陣内教育長】

総合計画のときは「方向性」と書いてありますか。

【黒木係長】

はい、総合計画も同様に「方向性」という表現を用いています。

【陣内教育長】

佐世保市全体の総合計画があり、その中に教育分野や子育て分野など各分野があって、それぞれの分野の一番大きなところで方向性を定め、その方向性を達成するために次の段階から目標値を定めていくという立て付けになっています。

佐世保市の総合計画そのものがこのような構造で、それに準じているということですね。

そろそろ第8次総合計画の準備に入りますので、その際には今の意見も反映させたいと思います。ありがとうございます。

【西沢委員】

ありがとうございました。

【松野教育長職務代理】

1点、お尋ねしてよろしいでしょうか。

29ページに「体験学習、教育環境充実事業を行うことによって自己肯定感も向上している」とあります。

もう1つ、令和7年度から中学校の野外宿泊活動に関する扶助、つまりバス代の補助を廃止したということでしたが、中学校はそういう形になっている中で、小学校の方は保護者負担で野外宿泊体験を行っているのでしょうか。

また、中学校の方はバス代の補助がなくなったことで、野外宿泊はほとんど行われなくなったと考えてよいでしょうか。

【陣内教育長】

もともと、学校の教育課程の中に「野外の宿泊的な活動」はなかったのです。

昭和40年代から50年代にかけて学習指導要領が改訂され、「自然の中での宿泊等の活動を積極的に取り入れましょう」という方針が入りました。

それまで発生していなかった保護者負担が新たに発生するため、そのころ全県的に「保護者に負担がかからないよう補助金で対応しましょう」というのがスタートしました。

その県の補助金なくなった際、ほとんどの市町が市の補助金という形に切り替えました。

その後、ある程度の年数が経ち事業が一般化した段階で、「新しい事業によって新たな負担が

発生したので、一定期間補助する」という本来の趣旨に沿って、各市町は補助を打ち切りました。佐世保市だけが中学校について何十年も補助を続けていた、というのが中学校だけ補助が残っていた理由です。

もう1つは、中学校の学習指導要領の改訂が先に行われ、その後に小学校の方にも下りてきたため、小学校が野外活動を始めようになった時期には、すでに中学校では活動が定着しており、新たに小学校への補助というのは始まっていなかったという経緯があります。

今回の見直しで、本来の形になる。

つまり、小学校は以前から保護者負担、中学校はずっと公費負担だったものが、今回小学校と同じように保護者負担になる。

これが県内すべての市町の小中学校の標準的な形であり、今回佐世保市もこの形になったということです。

ですので、県が中学校への補助をなくしたからといって、中学校の野外活動がなくなったわけではありません。以上です。

それではよろしいでしょうか。

先ほども少し触れましたが、評価シートが随分良くなり、PDCAサイクルがしっかり反映できるようになりました。

今回は新たに、この後触れられるかもしれませんが、外部評価の観点も内部評価の中に組み入れられる仕組みができつつありますので、さらに良いものになっていくのではないかと思います。評価が目的ではなく、評価によって子供たちや市民の皆様に対する施策が充実するという、本来の姿にどんどん近づいてきていると思いますので、この調子で改善をよろしく願います。

(2) 令和8年度(令和7年度活動)自己点検及び評価(内部評価)における外部委託の件

【塚田総務課長】

当日資料①より説明

【陣内教育長】

事務局提案では、田中誠氏は特に学校分野に強い方であり、新規の山口龍虎氏は社会教育分野に精通されています。バランスを考えて選考していただいています。委員の皆様、よろしいでしょうか。

【教育委員一同】

はい。

(3) 佐世保市学力向上プランについて

【木下学校教育課長】

別添資料②より説明

【陣内教育長】

ありがとうございました。

前回、様々なご意見をいただき、またメール等でも多くのアドバイスをいただきました。それらを反映した形で、今回事務局提案としてお示ししています。

皆様からご意見、ご質問がありましたらお受けします。

【松野教育長職務代理】

1つ確認です。8ページの構想図ですが、前回は「3つの柱」という表現があり、構想図の中に柱を用いて説明がありました。

今回はその「3つの柱」という表現がなくなっていますが、9ページ以降には「1つ目の柱」「2つ目の柱」「3つ目の柱」という表現が残っています。

このとき、中心にある「学びのオーナーシップ」をより強くするのが一番の柱という考え方もあると思うのですが、そのあたり、柱の図がなくなったことと、その後の記述のつながりがどうかという点が1つ。

もう1点は、「アプローチ」という形で1～4と番号が振ってありますが、本文との順番が合っていないのではないですか。確認をお願いします。

【陣内教育長】

文言を修正してください。

「Key factor」とするのか「第1の方針」「第2の方針」という言葉にするのか、柱という表現にするのか、用語を合わせてください。

その用語に合わせて、9ページ以降のタイトルも統一する必要があります。

また、12ページ以降の「①学びの動機づけのアップデート」などのアプローチの順番や表現の仕方も整理してください。

内容的には良いと思いますが、表現として確かにご指摘のとおりです。事務局で整理をお願いします。

【西沢委員】

第2の方針として「多様性の包摂」と書いてありますが、これは「ベース」という認識でよろしいですか。

一番広いベースにあり、その上に「主体的・対話的で深い学びの実装」があって、一番上、つまり最も重要なものが「学びのオーナーシップ」というイメージでよいでしょうか。

【木下学校教育課長】

「多様性の包摂」は、学びをもつ児童生徒全体を包み込む概念として、事業全体を支えるものということで、図の外側に広く配置しました。

それらを踏まえて「自律的に学ぶ力の育成」へとつなぎ、その先に「ウェルビーイングの実現へ」というイメージを記載しています。

【陣内教育長】

「Key factor」と「方針」は違いますね。

方針1と方針2が横並びで並ぶのは理解できますが、このKey factorが並列で並んでいるのには違和感があります。

なぜ「学びのオーナーシップ」がここに記載されていますか。

学びのオーナーシップは「自律的に学ぶ力の育成」のところではなかったですか。

【鳩山学校教育部長】

当初、「3つの柱」を縦に並べる構図にしていたのですが、様々なご意見を受け、事務局内で見直しました。

この3つの柱自体を、根本から考え直したところ、現在文部科学省から示されている「第1の方向性」「第2の方向性」は、まず外すことができませんでした。

「学びのオーナーシップ」は、教師が教えるだけでなく、子供たちが自己決定できる場面を取り入れた授業転換ができないかという考えから入れたものです。

この3つは何とか強調したいという思いがありました。

主体的・対話的で深い学びの実装を進めていく中で、特に本市として力を入れたいのが「学びのオーナーシップ」であり、方針として位置づけています。

【陣内教育長】

今の説明は理解できますが、そういう説明であれば、ここに3つ並べるのはやはりおかしくないですか。

方針2つが並ぶというのは理解できます。

そこにオーナーシップが並ぶのは、ここではなかったのではないのでしょうか。もっと上位の概念ではなかったですか。

【鳩山学校教育部長】

オーナーシップを別の場所に配置することも検討しました。

その方がよいというご意見が多ければ、そのように対応します。

主体的・対話的で深い学びを実装するにあたり、今佐世保市の課題は、学びのオーナーシップを子供に委ねるような授業転換が十分にできていない点だと考えています。

実装の過程で、オーナーシップに力を入れていきたいという意図です。

【陣内教育長】

学びのオーナーシップは、もっと大きな概念ではないのですか。

主体的・対話的で深い学びや多様性の包摂は、事業や授業の中で実現していくものですよね。

【鳩山学校教育部長】

大きな概念として捉えることも可能だと思います。

授業レベルで改善を図る際に、この言葉を1つのKey factorとして掲げ、すでに学校が動き始めているところもあるので、「主体的・対話的で深い学びの実装」を進める中で、授業改善レベルに「学びのオーナーシップ」を持ち込めると良いと考えています。

【陣内教育長】

文部科学省の資料を、もう一度確認してもらえませんか。

「主体的・対話的で深い学びの実装」は、授業レベルや単元レベルの話であると思います。

学びのオーナーシップも、今部長が言われたように授業レベルのこととして文部科学省は考えているのでしょうか。

あるいはもっと広い概念として、授業時間だけでなく、学びの目的や学んだことを人生にどう生かすかまで含めて考えているのではないのでしょうか。

いずれにしても、文部科学省の考え方を再度確認してください。

【鳩山学校教育部長】

確認いたします。

【陣内教育長】

西沢委員のご意見から少し離れてしまったかもしれません。すみません。

【古賀委員】

中学生はちょうどテスト期間が終わったところですが、「テスト勉強の仕方がわからない」という保護者の声が多くあります。

まとめるのに時間がかかり、その次にどうつなげればよいか分からない、やり方がわからないというのを本当によく聞きます。

保護者としても答えにくく、授業の中で「ここはテストに出るからね」ということではなく、子供たちに学びを定着させるような指導が必要だと思います。

それが、おそらく今おっしゃっているオーナーシップにも関わるのだと思います。

社会に出てからも学び続けることにつながるオーナーシップと、授業のあり方をどうにかできないかと感じます。

もう1つ、体を動かすことが好き、というデータがあったと思いますが、タブレットでドリルをするために、昼休みに外で遊ぶ子が減ったので、昼休みのタブレット利用に制限をかけている学校があると聞きました。

タブレットの活用を推進する一方で、子供たちの育ちに影響が出てきている部分があり、昼休みを何分までとしたり、「天気の良い日はタブレットを使えません」といった制限をかける学校が出てきているようです。

現場の状況とICT推進が矛盾してきているので、その辺もどこかで盛り込めないかと思いました。

これはオーナーシップと関連しますし、13ページの「安全」にも関わり、14ページにもつながる話

だと思います。

【陣内教育長】

端末について、例えば「晴れた日は運動場に行きましょう。端末は使わないようにしましょう」というようなことは、「スマート・スクール・SASEBOネクスト」の中に何か入っていますか。

【鳩山スマート・スクール・SASEBO推進室長】

昼休みを限定したような書きぶりはなかったと思います。

授業での使用を基本としながら、使われ方の質を上げましょうという趣旨です。

【陣内教育長】

今の学校は分かりませんが、昔は「今日は天気が良いのでみんな運動場に行きましょう。今日は教室で本を読んだりするのはだめですよ」という指導をしていましたよね。

今もそうしているかどうか分かりませんが、その感覚で言えば「今日はタブレットはやめて外で遊びましょう」と言うのは、昔も同じ考え方で「運動場に出なさい」と指導していたのと同じレベルかもしれません。

昔は「あやとりは雨の日にしなさい」「本読みは雨の日にしなさい」というような細かいルールがありましたし、「UNOなどのカードゲームは持ってきていいが、天気の良い日は出してはいけない」というルールもありました。

それと同じ意味合いの指導かもしれませんね。

【古賀委員】

どんどんタブレットを使いなさいという方向から、少しずつ体力との関係などを考えて、制限をかける学校が出てきているのかもしれません。

一概には言えませんが、そういう学校があると聞きました。

保護者としては、学校の方である程度ボーダーラインを示してもらわないと、子供たちは家に帰ってからも外で遊ばず、休みもずっと家の中にいるので、そうしたルールを問題視しているわけではありません。

【鳩山スマート・スクール・SASEBO推進室長】

自主学習をやめて外で遊びなさいと言っているのでしょうか。

【古賀委員】

授業の事前調べ学習の延長かもしれませんし、内容までは分かりませんが、とにかく制限をかけていると聞きました。

【中村委員】

質問と意見です。

まず、この佐世保市学力向上プランですが、図が効果的に入っていることで、非常に読みやすくイメージしやすくなっていると感じています。

この実際の使われ方としては、何らかの研修の場を用意して先生方に周知する計画なのか、単に配布されるだけなのか。

また、配布対象は管理職のみなのか、すべての教員なのか、その点を教えていただけますか。内容についてですが、第1の方向性と第2の方向性が本文中にも書かれており、柱ではなく「第1の方向性が主体的・対話的で深い学びの実装」で、その中のキーファクターがオーナーシップなのかなと読んでみて感じました。

本文中に「多様性の包摂」が第2の方向性と明記されているので、例えば8ページの図では、第1の方向性が主体的・対話的で深い学びの実装、その中のキーファクターが学びのオーナーシップということで、連続したページで位置づけるとイメージしやすいと思いました。

第2の方向性とした場合には、多様性の包摂を下の方に位置付けると、本文と連動して分かりやすくなるのではないかと感じました。

また、アプローチに関しては1と2が本文の順番と逆になっているようなので、これは揃えていただいた方が分かりやすいと思いました。

10ページのオーナーシップの本文中に「複線型授業デザイン」「メタ認知」という言葉がありますが、私は説明を受けないとピンとこない部分があります。

全ての先生がすぐ理解できるとは限らないので、括弧書きで補足を入れるなど工夫が必要ではないかと感じました。

メタ認知については「自分の学びを見つめる力」と括弧書きがありますが、複線型授業デザインも最後まで読めば意味は分かるものの、少し分かりにくい印象です。

また、オーナーシップの本文の2行目「児童みずからの選択・決定・振り返りにより、自律的に学び続ける力の礎を育む」というところは、一番重要な箇所だと思うので、太字やアンダーラインなどで強調してもよいのではないかと感じました。

細かい点で恐縮ですが、そのような印象を持ちました。

特に、どのような流れで周知・徹底されるのか。このプランは非常に良いものができつつあると思うので、効果的な研修や周知の仕方を計画していただければと思います。

【陣内教育長】

10ページの用語については、書き方を工夫してください。

教育用語は米印を付けて横に解説を入れるなどの方法を検討してください。

19ページ以降については、学校教育課、教育センター、スマート・スクール・SASEBO推進室、その他の担当が、学校にどのようなアプローチをして学校がどう変わっていくのかを説明してください。

【木下学校教育課長】

別添資料②P19より説明

【陣内教育長】

この説明会は校長会でもしますか。

【木下学校教育課長】

はい。行います。また、教頭会でも行います

【陣内教育長】

校長会の中の5分や10分で説明しますか。それとも、このプランの説明だけの会を設けますか。

【木下学校教育課長】

今考えているところでは、5分程度では足りませんので、校長先生を対象とした時間をしっかり確保した上で実施したいと思います。

【陣内教育長】

このプランのための研修会を校長対象で設ける、というイメージですね。

【中村委員】

これまでの学校訪問で、「理想的だ」と感じる授業を見せていただいたときに、どうやったら広がるのかと考えていました。

このプランは、その1つのツールだと思いますが、本当に模擬授業を見学するような機会があっても良いのではないかとイメージしています。

ぜひ、効果的な研修として、5分や10分では伝わらないと思いますし、分かっている方にはもちろんですが、そうでない方に広げていただくためにも、しっかり計画を作っていただき、理想的な授業が広がるような取組をお願いしたいと思います。

【大石教育センター長】

別添資料②P20～21より説明

【鳩山スマート・スクール・SASEBO推進室長】

別添資料②P21～22より説明

【陣内教育長】

アンケートはなかったでしょうか。その説明をお願いします。

【大石教育センター長】

この学力向上プランをご議決いただいた後に、各学校にアンケートを配布します。

内容は6ページ下の四角内に書かれているようなアンケートで、Googleフォームで回答していただきます。

【木下学校教育課長】

今まで、全国学力調査は6年生の4月初めに行っていて、結果がどうなったかの検証が十分できていませんでした。

年間2回、春と秋の時期に検証を行いたいと考えています。

【陣内教育長】

それはどこに書いていますか。

【木下学校教育課長】

記載がないので記載します。

【陣内教育長】

資料の後ろの方でもよいので、記載をお願いします。

また、今、中村委員の質問への答えの中で、例えば20ページからの教育センターのところでは、「実施時期」が書いてあり、学力向上コアプラン研修会は1学期、事業改善研修における研究授業は2学期と記載されています。この書き方が最も良いと思います。

他の課の項目には「いつ実施するか」が書かれていないので、「いつ頃を目途にどのようにしていくか」を記載した方が良いです。

【西沢委員】

最後にもう1度、先ほどの8ページのところを確認したいのですが。

皆様のお話を聞きながら整理していく中で、ふと思ったのですが、私が言いたかったのは概念的な話で、「多様性」というのがいわば「地盤」のようなもので、その上に初めて「主体的・対話的で深い学びの実装」がある、というイメージを持って読んでいました。

しかし、今ここでやろうとしていることは「自律した学習者を育てるために何に注目すべきか」を説明する資料であり、そのために「多様性」をピックアップしたということなのかと理解しました。

この図や解説が「ウェルビーイングの実現」という大きな目標を見据えたときの「ベースになるもの」という概念的な説明だとすると、私には少し違和感がありました。

そもそも、それよりも手前の段階、つまり子供たちに先生方が授業でアプローチするうえで大切なこと、という認識で理解した方がよいということでしょうか。

そうすると、図式の意味や捉え方も変わってくると思います。

概念と「目的のためにこれが必要です」という説明は別物だと思いますが、私は前者、つまり概念として見ていたので、「多様性の包摂」が柱に来るのは違うのではないかと感じていました。

【鳩山学校教育部長】

「多様性の包摂」が概念であるというのは確かにそのとおりだと思います。

今回、次期学習指導要領に向けた方針には、はっきりと3つ記載されています。

1つ目が「主体的・対話的で深い学びの実装」、2つ目が「多様性の包摂」、3つ目が「実現可能性の確保」です。

この3つは、「多様な子供たちの深い学びを確かなものにする」というテーマで次期指導要領が示されます。

「多様性の包摂」は確かに概念的要素を大きく含んでいますが、その中に「個別最適な学び」「協働的な学び」「立体的な推進」というキーワードが込められていると解釈しています。

主体的・対話的で深い学びを実装した授業を行っても、教育には多様性をもつ子供たちがたくさんいるため、1つの方向だけでは主体的・対話的で深い学びを実現できていない実情があります。

そこに配慮し、協働的な学びの場である必要があり、そこも含め授業転換が必要になってきていると考えています。

【西沢委員】

ありがとうございます。

このプランを作ってくださった皆様の思いが先生方にきちんと伝わらないと、非常にもったいないと思います。

図式や文章も、今のご説明や思いを含めて伝えていただければ、先生方もよく理解されるのではないかと思います。

私のような立場でも理解できたので、先生方ならきちんと分かっていただけたと思います。

ぜひ、この図に加え、今のお話も併せて説明していただけると、子供たちのウェルビーイング実現に向けた推進力になると思います。

今のご説明で私もかなり理解できました。ありがとうございます。

【陣内教育長】

「背景であり、手段でもある」という両側面を持っているという考え方で作っているということです。

おっしゃるように背景としての側面があるので、図の一番下の土台として位置づけるべきですが、今の説明でよろしかったでしょうか。

【西沢委員】

はい、ありがとうございます。

【陣内教育長】

最後に確認したいことがあります。

このプランは5年間のプランですか。

【木下学校教育課長】

5年間のプランですが、毎年手直しを行いたいと思います。

【陣内教育長】

では、まとめます。

まず6ページの「主体的・対話的で深い学びの実装」のアンケートの問い方について、低学年には分かりにくいという話がありました。

1・2年生については、この項目は割愛する。

3・4年生については、担任が補足説明をした上で実施する。

また、このアンケートを年間2回、全ての学年で実施するのですよね。そのことが資料に書いてありません。

それを6ページに書くのか、資料の一番最後の学校がするところを書くのか検討し、「このアンケートをもってPDCAサイクルを回す」「従来の点数の良し悪しではなく、こうした中身をチェックするのだ」ということを明確にしてください。

次に8ページの図について、「学びのオーナーシップ」のレベル感、授業の中でもオーナーシップを育てるのか、もっと大きなところがオーナーシップなのか、文部科学省の考え方を再度確認してください。

それによって、言葉の位置が授業の中に入るのか、上位の「自律的に学ぶ力」の部分に入るのかが変わってくると思います。

9ページ以降は「柱」という言葉や順番を再度整理してください。

12ページ以降は、「①学びの動機づけのアップデート」が図との整合をとれていないので、図と整合させてください。

19ページ以降は、それぞれの丸印ごとに実施期間を明示してください。

教育センターの書き方が良いと思いますので、教頭会での周知をいつごろ行うか、「未来シードの活用促進」は通年だと思いますが、重点的に行う月があればその旨を記載する、「授業実践ツールの開発」をいつまでにどこが行うのか（スマート・スクール・SASEBO推進室だと思いますが）を記載してください。

以上でよろしいでしょうか。

それでは、このプランについては、今日ご議決いただいてよろしいでしょうか。

今述べた観点に沿って、私と事務局で確認し、決裁を取らせていただくということで。

【教育委員一同】

はい。

【陣内教育長】

それでは、報告事項に移ります。

(4)7月の社会教育事業について

【田村社会教育課長】

報告①P2～6より説明

【陣内教育長】

グローバルキッズチャレンジも毎年すごく好評で、お母さん方から「弟妹がいるので毎年続けてください」と言っています。

では次に行きます。

(5)令和8年度佐世保市中学校体育大会の結果について

【藤川学校保健課長】

報告②P7～8より説明

【陣内教育長】

ありがとうございます。

けがはなかったということですが、熱中症による搬送もなかったのですか。

【大田学校保健課主幹】

熱中症による救急搬送はありませんでした。

ただ、熱中症気味の生徒に対して救護係が対応した件が2件ありました。サッカーとソフトテニスの競技での事例です。

【陣内教育長】

主に屋外競技で、熱中症のような症状だったものの、養護教諭が対応して改善し、救急車搬送までは不要だったという理解でよろしいですね。

【大田学校保健課主幹】

その理解で間違いありません。

【陣内教育長】

松野職務代理に伺います。

例えばバスケットボールで1・2・3位がありますが、この中で県大会に進めるのは何位までですか。

【松野教育長職務代理】

現在、県の枠として決められている数だけが出場できます。

【陣内教育長】

この資料では、例えばバスケットボール男子は日宇中と山澄中が県大会に進むということですね。

県大会に出場した後、その上位校が九州大会、全国大会に進むことになりますか。

【大田学校保健課主幹】

競技ごとに九州大会への出場枠が決まっています。

一般的には1校または2校が九州大会に出場します。

県の1位または2位が九州大会に進み、九州大会で3位や4位などの上位に入った学校が全国中学校大会(全中)につながるという形です。

また、競技によっては県優勝の個人がそのまま全中に出場する場合があります。

【陣内教育長】

斜線が入っている体操等はどうなっていますか。

【大田学校保健課主幹】

市の大会がなく、そのまま全員が県大会へ出場となります。参加人数が少ないためです。

【中村委員】

ソフトボールも同じですか。

【大田学校保健課主幹】

ソフトボールは佐世保市では日宇中学校しかチームがありませんので、市の大会を開催できず、そのまま県大会に出場する形になっています。

【陣内教育長】

ハンドボール女子はなぜ5チームも県大会に行けるのですか。

【大田学校保健課主幹】

ハンドボールもチーム数が非常に少ないため、市の大会は順位付けをするためだけに行われています。

勝敗にかかわらず、全てのチームが県中総体に出場できるようになっています。

【陣内教育長】

佐世保はハンドボールが多いのですね。

他の教育委員さんからありますか。

【委員】

ありません。

その後、次回開催予定日を確認し、終了となった

---了---